

環境教育の重要性

今日、地球上には環境破壊につながる様々な問題が生じており、環境問題に対して緊急に対処しなければならないという認識が高まっている。すなわち、一人一人が人間と環境とのかかわりについて理解を深め、豊かな自然等の価値についての認識を高め、環境を大切にすることをもち、環境に配慮した生活や責任ある行動をとること、また、環境問題を引き起こしている社会経済の背景や仕組みを理解することにより、社会経済の構造を環境に配慮した持続可能なものへと変革していく努力を行うことが求められている。

このような状況のもと、環境問題や環境保全に主体的にかかわることができる能力や態度を育成するために、環境教育の重要性は、ますます高まっている。

こうした中、平成18年12月22日に公布・施行された改正後の教育基本法においては、教育の目標の一つとして、「生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養うこと。」（第二条第四号）とする規定が盛り込まれた。

今日の環境問題への対応にあたっては、次のような視点が必要である。

- 環境問題はたくさんの要素が複合的に絡み合っているため、環境そのものを総合的にとらえる必要がある。
- 国民生活や事業活動の在り方そのものを環境への負荷の少ないものに変えていくことが必要である。
- 地球規模の空間的広がりや将来世代にわたる時間的広がりをもっており、国際的な連携のもと、科学的知見の充実と未然防止を旨とした対策が必要である。

環境教育の目的

環境や環境問題に関心・知識をもち、人間活動と環境とのかかわりについての総合的な理解と認識の上に立って、環境の保全に配慮した望ましい働きかけのできる技能や思考力、判断力を身に付け、持続可能な社会の構築を目指してよりよい環境の創造活動に主体的に参加し、環境への責任ある行動をとることができる態度を育成する。

（国立教育政策研究所『環境教育指導資料』小学校編から引用）